

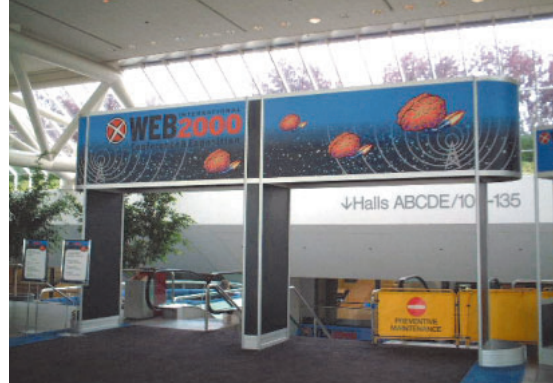
ユーザビリティを深化させる 『ユーザーエクスペリエンス』の 時代へ!

米国 ウェブデザイン 最新動向

WEB2000 レポート

2000年10月30日から11月3日まで、米国サンフランシスコのモスコニ・コンベンションセンターにおいて、「WEB2000 Conference & Exposition」が開催された。当日の様より、新世紀のウェブデザイン&ウェブテクノロジーを占うためのポイントをお伝える。

文 / 写真：篠原稔和 + ソシオメディア www.sociomedia.com



カンファレンス会場入り口

ユーザーエクスペリエンスの重要性

ドットコム企業淘汰の時代の只中にある米国で、まさにウェブの未来を占う議論や展示が繰り広げられた。WEB2000 **Jump01** のカンファレンスでは、テーマを大きく3つの柱（ストラテジー、ユーザーエクスペリエンス、テクノロジー）に絞り、100を超えるセッションを展開。

特に今回注目を浴びたテーマが「ユーザーエクスペリエンス」（ユーザー体験）だ。従来、このトラックには、「情報デザイン」「ユーザビリティ」「ビジュアルデザイン」といったテーマ群が設定されていた。しかし今回、ユーザビリティ（使い勝手や使いやすさ）の視点を押し広げた考え方である「ユーザーエクスペリエンス」のトラックが設定され、多くの参加者が集まった。ユーザーエクスペリエンスへの取り組みが議論的となり、その重要性が後出のワイヤレスほかあらゆるカンファレンスでも繰り返し強調されていた。

そもそもユーザーエクスペリエンス（User Experience）とは、コンピュータシステムやウェブサイトの使用感を表す意味で、情報の発信者側の視点だけでなく「ユーザーの視点」を加味したアプローチを指す。現在、米国のウェブデザイン会社やコンサルティング会社にとって欠かすことのできないテーマとなっており、コンサルタントやプランナーを集めた「ストラテジー」のセッションでも、「ソリューションの中で、ユーザーエクスペリエンスはウェブサイトが人々に受け入れられるために必要なプロセスだ」（パイアント社 **Jump02** のコンサルタント、ブルックス・クリコロー氏）と位置付けていた。



ウェブ関連企業約100社が軒を連ねた展示会場

ワイヤレス成功のための鍵

カンファレンスと併設された展示会場では、約100社の企業や団体がECやASP、コンテンツ管理などウェブにかかわるテーマを掲げてプレゼンテーションを行った。

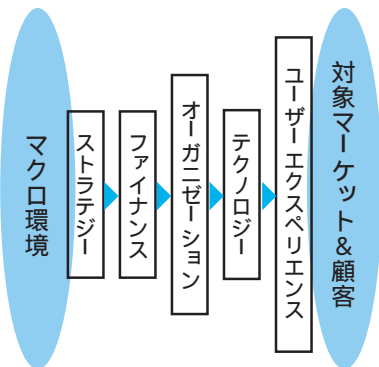
特にワイヤレス、モバイル、ハンドヘルドデバイスについては、特設のパビリオンで多くの発表が行われた。なかでも、フィンランドのワイヤレスベンダーであるキャブスロック社 (Jump03) は、ワイヤレス向けのXMLミドルウェアに対応した標準アーキテクチャー「CAWA」を提唱し、XMLに準拠した携帯電話やモバイル機器などのデバイスと事例を発表して注目を集めていた。

また、カンファレンス会場でも「ワイヤレス」が大きなテーマとして取り上げられた。特に、グラフィックデザイナーのアロン・マーカス氏 (Jump04) のセッション「Extreme Design for Mobile Computing: UI Design of Baby Faces」では、モバイルコンピューティングのインターフェイスデザインを考えるうえで、米国より12か月、欧州より6か月先行している日本の携帯文化をケーススタディーとして取り上げていた。小さなインターフェイス (Baby Faces) に、使い勝手のいいデザインをいかにして施すかについて、詳細な解説が行われた。マーカス氏は、デザインの質の高さと先進的なアプローチ (見た目と想像を一致させるメタファーやメンタルモデルなどを使用) とを両立させることが、利用者に受け入れられる携帯端末のインターフェイス成功の鍵だとしている。



(上) 最終日のテクノロジー・トラックで行われたセッション風景。個々のプレゼンテーションのあと、ソファに座って、会話を楽しむように議論が展開された (左下) 展示会場の中のワイヤレスパビリオン (右下) 最終日のユーザーエクスペリエンス・トラックで行われたジェフリー・ビーン氏のプレゼンテーション

ビジネスとウェブサイトの関係



【参考】

- WEB2000
www.web2000show.com
- Viant社
www.viant.com
- Capslock社
www.capslock.fi
- Aaron Marcus氏の会社のウェブサイト
www.AMandA.com
- Molly Holzschlag 女史が連載するウェブマガジン
www.webreview.com
- Wired Magazineのウェブサイト
www.wired.com

メンタルモデル：一定の理解のもとで頭の中に構成されるモデルのこと。このモデルを使って、さまざまな事象を理解する。構成の仕方により、何かにとらえるアナロジー（類推）や厳密な理論的モデルなどを使う。

XMLが変えるウェブの未来

最終日、カンファレンスの最後を締めくくる「テクノロジー」のセッション「Emerging Technologies Demystified」(新しいテクノロジーを解明する)では、テクノロジーセッションのチェアマンを務めた気鋭の技術コラムニストのモリー・ホルシュラグ女史 (Jump05) をはじめ、ウェブテクノロジーの最前線で活躍中のエンジニアたちによって議論が行われた。

特に、2000年に大ブレイクを遂げたXMLを取り上げ、単にフォーマットを記述するにすぎないXMLに対しては、システムのモデリングこそが重要だと強調された。

また、「ユーザーエクスペリエンス」のセッション「Designing for the Future Web」(未来のウェブのためのデザイン)でも、Wired

Magazine (Jump06) のインターフェイスデザイナーであるジェフリー・ビーン氏がXMLの重要性について語った。ビーン氏は「ウェブを構成するコンポーネントは、ストラクチャー(構造・組み立て)、プレゼンテーション(表現)、ビヘイビア(動き・ふるまい)の3つであり、コンテンツの構造を決定する未来のウェブ技術はXMLである」としたうえで、「うまくデザインされたウェブサイトにするためだけでなく、人々がデータを共有するためにもXMLを積極的に活用していくことが大事だ」と力説。そして最後に「ウェブデザインのアーキテクチャーは、必ずユーザーの要求の中から導き出されてくるものだ」としてカンファレンスを締めくくった。

ユーザーエクスペリエンスとXML、そしてワイヤレスを射程に入れたウェブサイトデザイン。はたして21世紀のウェブはこの軌跡を描いているのだろうか？



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp